逃げた先には空色歌姫

八島ちとせ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
逃げた先には空色歌姫

【Ｎコード】
Ｎ４９５１ＢＡ

【作者名】
八島ちとせ

【あらすじ】
何をしてもダメダメなリールの逃げ道、小さな廃校。そこで聞いた歌声をたどっていくと、空色の髪の女性がいた。

涙目を隠しながら、リールは石畳の街道を駆け抜けていく。こうして、お気に入りの道を泣きながら走っていくのは、いつものことだ。

昼下がりで人はまばら、太陽が明るく人々の心は自然と前向きになる……リールは例外だが。

またいつもの失敗だ。そそっかしくて鈍い、要領が悪いため、やることなすことすべてが遅い。今日の失敗は、学校での掃除だった。綺麗好きの部類に入るリールは、教室掃除をきっちりやっていた。のだが、花瓶を落としたりバケツをひっくり返したり、窓を拭こうとして枠から足を滑らせたりとさんざんだった。クラスメートたちは呆れて皆帰った。掃除が進まず、かえって教室が荒れたのをリールの責任にして、サボタージュを決め込んだらしかった。

責任の自覚のあるリールは律儀に掃除を続けて、ようやく帰ることができた。その途中、クラスメートからも先生からも、盛大なため息を露骨に聞かせてもらった。足早にその場を去ったが、泣きたくなるのを止められなかった。

自分がどうしようもなく鈍くてドジなのは自覚している。親からも諦められた。

なんとか人並みになろうと彼女なりの努力はしたが、実を結ぶことがなかった。

街道を駆け抜けて、リールは廃校となっている小さな学校に逃げ込む。誰も来ないしお化けもでない。リールのお気に入りの場所だ。

「わたし、いつも駄目だ」

小さな教室に置かれた机はわずか三組しかない。そのひとつに突

っ伏した。
「わたしなんていなくなればよかったのにね」
ぎゅっと目を閉じて空想に更ける。リールの空想は、リールに優しい世界だ。ここなら、いくら失敗をしても大丈夫。
「いっそのこと、ここにずっといたら。誰も気づかないで静かに寝てたいな」

誰に言うでもない独白に答えたのは、かすかに聞こえる歌だった。
リールは机から顔を上げ、歌をたどっていく。
廊下だとさらに歌が鮮明に響く。

かつては音楽室だった教室で、女性が歌っていた。空色の髪が風に揺れる。
ピアノはもう音を奏でることはない。その人は、ピアノを優しく撫でながら、透き通った声で歌う。

ふいに、リールは立ち尽くしたまま、ぽろぽろと涙を落とした。
さっきまで必死に押さえていたのに、今はそれすら気にならない。
これほど慈愛に満ちた歌声を、聞いたことはなかった。その人の歌は、静かにリールの心に溶け込んでいく。
さっきまでの嫌なことや、逃げ道のための空想も、全部忘れた。
この歌を聞いて、リールは自分の心が優しくなった気がした。
リールは、廃校をあとにする。

（後書き）

歌を聞くとたまに感動してグッと来ることがありますよね。たまに涙目になる私の涙腺のゆるいことゆるいこと（笑）

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4951ba/

逃げた先には空色歌姫

2012年1月13日19時45分発行